



大分市民図書館が入る施設＝6日、大分市金池南



## 県内19館アンケート

	蔵書数(冊)	収蔵率(%)
県立	1,243,531	92
大分市	830,204	84
別府市	204,626	不明
中津市	305,505	113
日田市	145,325	97
佐伯市	133,090	80
臼杵市	169,598	120
津久見市	160,001	107
竹田市	133,585	74
豊後高田市	139,340	87
杵築市	145,118	91
宇佐市	263,052	95
豊後大野市	137,121	82
由布市	186,412	98
国東市	234,786	127
姫島村	10,000	100
日出町	95,091	63
九重町	49,015	97
玖珠町	86,163	99

公立図書館の蔵書数と収蔵率

※アンケート結果を基に作成。2024年3月末時点。収蔵率は最大収蔵数に対する蔵書数の割合(一部は本館のみ算出)

# 図書館 予算 収蔵 厳しく

## 本にも「物価高の波」

## 限界：処分や提供へ

読書の秋を迎えた。大分合同新聞は県内の公立図書館を対象に蔵書管理に関するアンケートを実施した。回答からは、各館が限られた予算や収蔵面積などの課題を抱えながら本や資料の選定・管理をしている様子が浮かび上がった。

県と18市町村の計19館の蔵書数は、今年3月末時点で計467万1563冊に上る(分館を含む)。最も多いのは県立図書館の124万3531冊で、▽大分市 83万204冊▽中津市 30万5500冊

や大活字本は高い。予算とのバランスが難しい」と打ち明ける。一方、古い本などを処分する「除籍」に苦心する様子もうかがえる。収蔵率が100%前後に達してスペースに余

るか。「書庫以外のワゴンに配置」「公民館に移す」といった回答があったが、最も多かったのは「処分や住民への提供」だった。大分市など多くの館は、経年劣化などで貸し出しがでなくなった本を

5冊▽宇佐市 26万3052冊」と続く。

県立図書館は市町村とのすみ分けを念頭に、専門書や学術書を中心に選定している。

日出町は町内の複数の企業がスポンサーとなり、雑誌26冊の定期購入費に充てている。

物価高のあおりは図書館も受けている。玖珠町は「本の単価が上昇している。中でも利用者ニーズに沿った学習本

裕のない館は多い。中津市は「収蔵能力が限界にきている。定期的・継続的な除籍が必要だが、保存期間内のもも多く悩ましい状況」という。

宇佐市は「郷土資料は除籍の対象外のため、今後も増える一方。限られた収蔵スペースで施設を最大限活用するには、電子図書の利用促進も不可欠」と指摘する。

「リサイクル図書」として定期的に希望者へ提供している。誰もが利用できる文化・教育拠点の図書館をどう運営していくか。竹田市は「人口減少に伴う厳しい財政状況の中で、いかに図書購入費を確保し、特色を生かした資料収集ができるかが鍵になっている」と強調した。

(安里葉冬)



〔問①〕 大分県内の計19図書館の蔵書数は合計何冊ですか。あなたの住む市町村は？

19図書館 = 467万1563冊 (あなたの住む市町村はそれぞれ表から抜き出す)

〔問②〕 物価高が図書館にも影響しています。なぜですか。

本の単価が上昇して、予算とのバランスで購入が難しくなるから

〔問③〕 古い本などを処分する「除籍」をしなければいけない理由はなぜですか。

収蔵率が100%前後に達して、スペースに余裕がないから

〔問④〕 本を読まない人が増えています。もっと本を読むようにする方法を考えよう。

自由記述